



平成 26 年度 体験活動プログラム 活動報告

体験活動の推進に関するワーキンググループ

2015/02/27

目次

I	体験活動プログラムの実施概要	1
II	体験活動プログラム活動報告	3
III	体験活動プログラム活動報告会	31

I 体験活動プログラム実施概要

<プログラムの件数および募集人数>

○ 提供プログラム数：111件、活動実施プログラム数：79件、募集人数：701名

区分	プログラム提供件数	プログラム実施件数	募集人数
国内プログラム	55件(50%)	40件(51%)	382名(55%)
海外プログラム	22件(20%)	21件(27%)	173名(25%)
研究室プログラム	34件(30%)	18件(22%)	146名(20%)
全プログラム	111件(100%)	79件(100%)	701名(100%)

<出願、参加状況>

- 全プログラムでの総募集人数 701 人に対し、出願者数は 542 名(77%:募集人数比)、出願者のうち、参加者数は 363 名(67%:出願者数比)。
- 国内プログラムは総募集人数 382 名に対し、出願者数は 211 名(55%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 173 名(82%:出願者数比)。
- 海外プログラムは総募集人数 173 名に対し、出願者数は 283 名(164%:募集人数比)、出願者のうち、採択者は 152 名(53%:出願者数比)。
- 研究室プログラムは総募集人数 146 名に対し、出願者数は 48 名(33%:募集人数比)、出願者のうち、参加者は 38 名(79%:出願者数比)。

区分	総募集人数	出願者数	参加者	不採択者
国内プログラム	382名	211名 <55%>	173名 《82%》	38名 《18%》
海外プログラム	173名	283名 <164%>	152名 《53%》	131名 《47%》
研究室プログラム	146名	48名 <33%>	38名 《79%》	10名 《21%》
全プログラム	701名	542名 <77%>	363名 《67%》	179名 《33%》

〈 〉内は募集人数との比率、《 》内は出願者数との比率

なお、プログラムに出願し、不採択となった者が別のプログラムに出願しているため、出願者数は延べ数を示す。

また、研究室プログラムについては複数の申請が可能となっており、出願者数及び参加者数は延べ数を示し、不採択者数には採択後に参加を辞退した者及び活動中止となったプログラムに参加を予定していた学生の数を含む。

<採択者の属性>

◆男女別内訳

○ 参加者 363 名の男女別内訳は、男子学生が 218 名(60%)、女子学生が 145 名(40%)。

	男子学生	女子学生	計
参加者の男女別内訳	218 名 (60%)	145 名 (40%)	363 名 (100%)

◆学年別内訳

○ 参加者 363 名のうち、学部前期課程学生は 175 名(48%)、学部後期課程学生は 188 名(52%)。

○ 参加者 363 名の学年別内訳は、1 年生 65 名(18%)、2 年生 110 名(30%)、3 年生 116 名(32%)、4 年生 68 名(19%)、5 年生 4 名(1%)、6 年生 0 名(0%)。

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	男子	女子
法			21 名	18 名			39 名	24 名	15 名
医			1 名		3 名		4 名	2 名	2 名
工			31 名	14 名			45 名	30 名	15 名
文			16 名	13 名			29 名	15 名	14 名
理			7 名	1 名			8 名	5 名	3 名
農			11 名	4 名			15 名	8 名	7 名
経済			7 名	10 名			17 名	12 名	5 名
教養	65 名	110 名	3 名	6 名			184 名	104 名	80 名
教育			14 名	2 名			16 名	14 名	2 名
薬			5 名		1 名		6 名	4 名	2 名
計	65 名	110 名	116 名	68 名	4 名		363 名	218 名	145 名

教養学部欄の「1 年」、「2 年」の欄は、前期課程の学生を示す。

◆学部前期課程学生の科類別内訳

	文一	文二	文三	理一	理二	理三	計
1 年	11 名	11 名	14 名	13 名	16 名	0 名	65 名
(国内)	9 名	6 名	7 名	6 名	8 名	0 名	36 名
(国外)	2 名	4 名	7 名	3 名	4 名	0 名	20 名
(研究室)	0 名	1 名	0 名	4 名	4 名	0 名	9 名
2 年	16 名	18 名	25 名	32 名	19 名	0 名	110 名
(国内)	9 名	16 名	13 名	13 名	9 名	0 名	60 名
(国外)	6 名	2 名	11 名	11 名	6 名	0 名	36 名
(研究室)	1 名	0 名	1 名	8 名	4 名	0 名	14 名
計	27 名	29 名	39 名	45 名	35 名	0 名	175 名

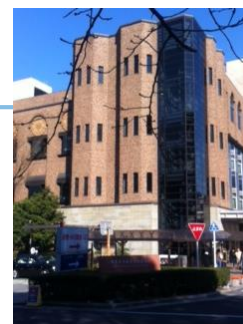
II 体験活動プログラム活動報告

国内プログラム名称		ページ数	海外プログラム名称		ページ数
1	東大こだま分教室の学習支援	4	1	世界の情報発信の中心地ニューヨークの脈動を感じてみよう	18
2	さいかち学級の学習支援(品川区立清水台小学校)	4	2	アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ(内側からアメリカ社会をみてみよう)	18
3	障害や難病のある高校生や大学生・読み書き障害のある小学生のための大学進学・就労移行支援プログラム DO-IT Japan	4	3	オーガニック農場 での Sustainable agriculture 体験(米国)	18
4	「学びのポイントラー」地域教育支援参加	5	4	ロサンゼルスにおける日系人／日本人の歴史と現在を学びドキュメンタリー・フィルムを制作する	19
5	在宅医療・介護体験プログラム	5	5	Work experience in the international venture business in Boston	19
6	日本語教室でのボランティア	5	6	グランゼコールでの研修、およびパリで働く卒業生から学ぶ	19
7	Disaster-Resilient Planning, Design + Reconstruction	6	7	女子学生のためのフランスの文化・ビジネス～研修体験、および欧州で働く卒業生から学ぶ～	20
8	公営塾・国語学習センターをプラットフォームとした課題発見・解決プロジェクト	6	8	国際インターンシップ ～グローバルな環境で仕事する楽しさを学ぶ～	20
9	現地で学ぶ里山資本主義ー里山の生き方、働き方、暮らし方体感プログラム	6	9	iUP・Veneto Experience	20
10	地域住民との学習・交流・体験を通じて地域の自立を考える「南信州・飯田フィールドスタディ」	7	10	TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)	21
11	Documentary research for the French Embassy	7	11	イギリスのなかの「日本」体験	21
12	学術出版の体験的学習	7	13	ネパールスタディーツアー2014	21
13	「市報の歩み」ダイジェスト版編集業務(広報誌から見る三浦の生活改善史)	8	14	新興国インドでのマーケティングリサーチ	22
14	スタートアップ10番勝負！(対決編)	8	15	インド・バンガロールで卒業生と一緒に国際体験	22
15	「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～	8	16	インド・ニューデリー&ダージリンで卒業生と一緒に国際体験	22
16	明石市役所での就労体験事業	9	17	医学と平和	23
17	未来を指向する地方自治体の活動への参加	9	18	UNIVERSITI TEKNOLOGI PETRONAS - THE UNIVERSITY OF TOKYO (UTP-UTokyo) SUMMER HOLIDAY PROGRAM	23
18	陶板複製名画美術館を体験する	9	19	起業するならシンガポールでしよう	23
19	鴨川から日本の教育を変える！(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	10	20	上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動	24
20	今アツいのはココ！地域課題解決の最前線でこれからのまちづくりを考える(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	10	21	東大生訪中団 ～中国のトップ大学・現地企業等の訪問及び交流～	24
21	食品流通を感じる～革新的な現場から～(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	10	22	ハーバード大学医学部研究室の訪問・見学	24
22	「お金を動かす。世界を変える。」ベンチャーキャピタルにおける就労体験(東京大学三四郎会ミライウォーカープロジェクト)	11	研究室プログラム名称		ページ数
23	マーケティング視点での課題解決を実践で学ぶ(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)	11	1	再生医療の研究開発に触れる	25
24	もしあなたが市長なら？ー現役市長と取り組む日本の課題ー(東京大学三四郎会インターン企画)	11	2	「医学の知」の体験	25
25	インターン事業の実施	12	3	農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定	25
26	犯罪被害者支援に関する事業の実施	12	4	脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い	26
27	農業、地域文化、自然を通じたまちづくり事業の実施	12	5	クラスター計算機の試作と並列計算	26
28	加賀温泉郷まるごとキャンパス体験事業	13	6	光学・量エレシ系研究室短期体験	26
29	ポスト新しい公共の場づくり事業協働体験	13	7	持続性循環資源工学研究室短期体験	27
30	農業・牧場作業体験@北海道	13	8	海洋微生物ナノ計測体験	27
31	農業・漁業体験と地域体験	14	9	最先端物質科学入門:「固体の中の宇宙」	27
32	地域で社会を学ぶ体験 in 長野・東御	14	10	核融合プラズマ実験入門 ー人工太陽は創れるか？ー	28
33	家畜の多様な役割	14	11	水理模型を用いた津波防災堤防の実験	28
34	癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～	15	12	イオン液体の実験を通して学ぶ化学研究体験	28
35	伊豆の体験活動 ー南伊豆という地域との連携に学ぶー	15	13	スマートフォン内蔵の加速度センサによる人間行動認識手法の研究	29
36	北海道の遺跡博物館における学芸員体験	15	14	環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ	29
37	浜名湖フィールドワーク体験	16	15	宇宙とろぼをつなぐプラズマ物理	29
38	農村版大学コンソーシアム木島分校夏季講座ー集落や他大学の学生との交流から今の農村を学び体感ー	16	16	利根川水系におけるニホンウナギの生態学的研究	30
39	希望学プロジェクト ふくい体験プログラム	16	17	最先端のプロトモイクスの手法を体験しよう	30
40	大阪府教育行政体験	17	18	発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験	30

01. 東大こだま分教室の学習支援

東京大学医学部附属病院の院内学級である東大こだま分教室にて、教室に通う小学生や高校生に授業のアシスタントとして学習支援を行った。具体的には、ディスカッションや会話のパートナー、工作作業、体育などを一緒に行った。小学生の子どもたちとは、休み時間に人生ゲームやトランプ、教室にある道具を使って遊びを考えたり、病棟へのお迎えにも同伴した。高校生に対しては、英語の音読を一緒に練習したり、定期的に入試や勉強について相談にのった。

日 程： 2014年8月-12月の間、各自定められた日程
参加学生： 4名
活動場所： 本郷キャンパス・都立北特別支援学校 東大こだま分教室
備 考： 東大こだま分教室
<http://www.h.u-tokyo.ac.jp/kodama/top/top.htm>



東京大学医学部附属病院



こだま分教室

02. さいかち学級の学習支援

昭和大学病院の院内学級であるさいかち学級にて、教室に通う子ども達に授業のアシスタントとして学習支援を行った。先生としての立場というより、同じ教室の仲間として、一緒に朝の会に参加し、詩を読んで、漢字プリントや計算プリントの問題に取り組んだ。また、休み時間は折り紙やアイロンビーズ、ゲームなどを一緒に楽しみ、授業終了後はベッドサイドまで見送りをした。さいかち学級の教員より、子ども達との接し方や授業の進め方、院内学級や病弱教育全般について幅広く学んだ。

日 程： 2014年9月-12月の間、各自定められた日程
参加学生： 3名
活動場所： 東京都品川区・品川区立清水台小学校
さいかち学級(昭和大学病院内)
備 考： さいかち学級
<http://www.showa-u.ac.jp/SUH/guide/saikachi/>



さいかち学級

03. 障害や難病のある高校生や大学生・読み書き障害のある小学生のための大学進就労移行支援プログラムDO-IT Japan

肢体不自由や視覚、聴覚、発達障害などがある高校生と大学生、及び読み書き障害のある小学生を対象としたDO-IT Japanの活動に、学習・生活支援スタッフとして参加した。3泊4日の夏季プログラムでは、スカーの自主性を重んじながら、移動のサポート、パソコン操作のアドバイス、食事の付添い、ノートテイク、シンポジウムの会場設営などを行った。夏季プログラム終了後も、配慮申請のデータ集めをしたり大学を案内したりするなど活動した。

日 程： 夏季プログラム 2014/8/3(日)-8/7(木)、各自定められた日程
参加学生： 4名
活動場所： 駒場第二キャンパス・東京大学先端科学技術研究センター
備 考： DO-IT Japan <http://doit-japan.org/index.html>



合理的配慮についてディスカッション



パソコンの機能講習

04. 学びのポイントラリー

「学びのポイントラリー」という地域教育の実施、運営の手伝いを体験した。学びのポイントラリー運営事務局の幹事会に月に一度参加し、各地域や他団体の活動について話を伺った。また、教育学研究科の大学院学生が指導する学習ゼミナールやリサイクルフェアなど、学びのポイントラリーに登録している活動を見学した。文京区で行われた親子環境教室では、教室の一部のコーナーを担当し、進行を務めた。



学習ゼミナールの様子

日 程： 2014年8月-12月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 東京大学教育学研究科 他
備 考： 地域の学び推進機構
<http://www.chiiki-manabi.org/>



受付業務の体験

05. 在宅医療・介護体験プログラム

在宅医療や介護を受けている患者に数日間密着し、患者の立場から医療・介護サービスの仕組みと患者や介護者の気持ちを知ることが目的とした。今年度は、訪問薬剤を見学したり、サービス付き高齢者向け住宅や住宅型有料老人ホームの夜勤と、複数の医療・介護施設と個人宅への訪問診療に同行したりした。各施設で医師、看護師、介護士、薬剤師など様々な職種の方の業務を見学し、様々な状況にある患者の話聞いた。



見学した薬局の事務室

日 程： 2014年9月-10月、各自定められた日程
参加学生： 3名
活動場所： 千葉県柏市
備 考： 東京大学高齢社会総合研究機構
<http://www.iog.u-tokyo.ac.jp/>



実際に使用されている服薬カレンダー

06. 日本語教室でのボランティア

工学系研究科の日本語教室の授業に参加し、初級、中級、上級クラスのアシスタントを行った。具体的には、日本語の新しい語彙や文法的な事項の補足説明、発音や会話のお手本、グループワークやディスカッションへの参加、文章作りに加わって会話の相手役となった。課外活動では、茶道や生け花体験、湯島の菊祭りなどに参加し、留学生と共に日本文化について学んだ。Japanese Lunch Tableでは留学生と日本語で会話をしながら昼食をとることで、楽しみながら留学生との交流を深め、国際的視野・感覚を養った。



担当クラスを決めるオリエンテーション

日 程： 2014年10月-12月、各自定められた日程
参加学生： 9名
活動場所： 本郷キャンパス
東京大学大学院工学系研究科日本語教育部門
備 考： 日本語教室 <http://www.jlcse.t.u-tokyo.ac.jp/>



授業のアシスタント

07. Disaster-Resilient Planning, Design + Reconstruction

岩手県住田町にて、「MIT Japan 3/11 Initiative」建築家グループの活動に参加し、地域の人々の憩いの場となる東屋を建築した。MIT学生と一緒に屋根、階段、スロープ、ベンチ、看板などをグループ別に設計し、木材を加工し、組み立てた。また、バリアフリー対応や入居者に配慮した木造の仮設住宅を見学した。住田町の夏祭りでは、ワークショップ以外で地元の人々と交流する時間ができ、故郷や復興について話を伺った。



東屋の建設



完成後、MIT学生や地元住民と記念撮影

日 程： 2014/8/4(月)-8/12(火)

参加学生： 10名

活動場所： 岩手県住田町

備 考： MIT Japan 3/11 Initiative <http://japan311.scripts.mit.edu/wp/>

08. 公営塾：隠岐國学習センターをプラットフォームとした課題発見・解決プロジェクト

島根県の離島にある公営塾で、夏季休暇中の集中講座として授業のアシスタントをした。また、生徒数が増加し進路が多様化している塾が、現状のスタッフで運営を保つ為の時間割を考案し、塾長や現地の行政担当者に向けて発表した。その他、ホームステイ先で議論する、海士町の祭で屋台運営を手伝う、民謡パレードに参加するなどし、地元住民と交流した。



英語・数学・国語・日本史などを指導

日 程： 2014年8月上旬-9月中旬、各自定められた日程

参加学生： 3名

活動場所： 島根県隠岐郡島前

備 考： 島前高校魅力化プロジェクト <http://miryokuka.dozen.ed.jp/>



キンニャモニャ祭に参加

09. 現地で学ぶ里山資本主義—里山の生き方、働き方、暮らし方 体感プログラム

東京大学教育学研究科の牧野教授が指導した「若者よ田舎をめざそう」プロジェクトの実施主体である、株式会社M-easyと愛知県豊田市の共同による農山村振興事業を体験した。チェーンソーで間伐した木材を運び、作った薪を地域通貨に交換し、地元商店で利用するという、全国で40か所に広がる木の駅プロジェクトを体験した。また、都心から移住した家族の話を伺い、子供たちが自由に遊ぶ企画に参加した。



薪割体験

日 程： 2014/12/20(土)-12/24(水)

参加学生： 6名

活動場所： 愛知県豊田市旭地区

備 考： 株式会社M-easy <http://www.m-easy.co.jp/>



地域通貨のモリ券

10. 地域住民との学習・交流・体験を通じて地域の自立を考える 「南信州・飯田フィールドスタディ」

長野県飯田市で住民主体の地域づくりについて学んだ。市長からは飯田市の行政や政策について、住民からは住民自治と公民館の関係性やいいだ人形劇フェスタ、町のシンボルであるりんご並木に関する活動など地域振興について、それぞれ話を伺った。農家民泊、五平餅や蕎麦などの郷土料理作り、人形を実際に動かす体験を通して、地域文化への理解を深めた。また飯田市の課題について地元高校生による発表を聞き、意見交換するなど交流した。

日 程： 2014/9/17(火)–9/20(金)
参加学生： 13名
活動場所： 長野県飯田市
備 考： 長野県飯田市 <http://www.city.iida.lg.jp/>



五平餅作りを体験



地元の高校生と交流

11. Documentary research for the French Embassy

在日フランス大使館の原子力部、政治部、宇宙研究センターで就労体験した。各々のテーマに関して文献調査をし、結果を報告書にまとめた。テーマによっては福島県での講演会に同行するなどし、数ヶ月の間、週に数回大使館を訪問し調査に取り組んだ。大使館の業務を生で見て体験するだけでなく、フランス大使館の職場の雰囲気を感じ、英語・フランス語を用いて就業する機会となった。

日 程： 2014年8月–12月、各自定められた日程
参加学生： 6名
活動場所： 東京都港区・在日フランス大使館
備 考： 在日フランス大使館
<http://www.ambafrance-jp.org/-Japonais->



伊達市中央交流館で開催された国際放射線防護委員会



大使館にて調査結果報告会

12. 学術出版の体験的学習

東京大学出版会にて、出版・編集業務を体験した。具体的には、出版部、編集部、営業部、企画連携本部などで研修を行い、実際に本がどのような過程を経て作られているかについて学んだ。また、校正の外注や書店回り、取次見学や在庫の置いてある倉庫見学なども行った。活動最終日には集大成として、本の装丁や内容の構成、読者についての想定などを考慮しながら、一冊の本の企画をゼロから立てて発表を行った。

日 程： 2014/9/1(月)–9/26(金)
参加学生： 2名
活動場所： 駒場キャンパス・一般財団法人東京大学出版会
備 考： 東京大学出版会 <http://www.utp.or.jp/>



出版会での研修の様子



企画発表会

13. 「市報の歩み」ダイジェスト版編集業務(広報誌から見る三浦の生活改善史)

神奈川県三浦市が取組む市史編纂事業を通じ、一般的な歴史的資料としてではなく、地域に根付いた「自治体史」として、地域と行政の歴史を紐解くとともに、課題解決や将来像を描いていくために活用可能なアーカイブスの作成を体験した。具体的には、過去の広報誌から興味のある分野に関する記事を抽出・選定し、その記事等に考察・所見を加えて三浦市における特定のテーマによる事象の変遷を取りまとめた。また、活動中は三浦市職員の案内のもと、実際に三浦市の様々な場所を訪問することで、三浦市の地形や最近までの歴史を学んだ。



三崎港の風景

日 程： 2014/8/25(月)-9/4(木)
参加学生： 1名
活動場所： 神奈川県三浦市
備 考： 三浦市 <http://www.city.miura.kanagawa.jp/>

14. スタートアップ10番勝負！ (対決編)

都内のスタートアップ企業7社を訪問し、サービスの改善と提案を行った。企業から与えられる課題に対し、フィールドワークや調査を通して解決策やアイデアを出し、実際に事業化できる段階までブラッシュアップしていった。また、活動中にまとめた提案は、活動最終日にプログラム関係者に向けて成果発表を行った。昨年の「帰れま10」の続編となる今回の「対決編」でも、活動中は提案した内容が企業側に納得されるまで何度でもリバイスを行った。短期間で多くのビジネスモデルに触れ、また、多くの起業家に出会うことで起業家精神を学んだ。



成果発表会

日 程： 2014/8/19(火)-9/3(水)
参加学生： 5名
活動場所： 東京都渋谷区・MOVIDA JAPAN 株式会社、
東京都内のベンチャー企業
備 考： MOVIDA JAPAN 株式会社
<http://www.movidainc.com/>

15. 「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～

参加学生5名は、それぞれ違う組織の元で釜石リージョナルコーディネーターの業務補助を行った。釜援隊という釜石市の民間・行政の立場から復興に取り組んでいる連携団体が釜石の子ども支援に関わったり、NPOで漁業に関わる活動や、市役所の復興推進本部で活動し、復興に関する様々な会議に出席し議事録など各種書類を作成したり、全体会も傍聴した。また、復興状況の情報発信のために、その地域で独自に発行している新聞の作成、編集にも携わった。全活動を統括し、インターン活動の報告会も行った。



釜石市長との懇談会

日 程： 2014/9/16(火)-9/26(金)
参加学生： 5名
活動場所： 岩手県釜石市近郊
備 考： 釜援隊 <http://kamaentai.org/>



釜石市副市長に活動報告

16. 明石市役所での就労体験事業

1日目・2日目は政策室において市政全般について学ぶとともに、政策室の担っている企画業務の一部(都市間交流事業の企画立案)を行い、2日目には市長と懇談した。3日目は市民相談室において、市民の方々に直接対応する業務を学び、案内窓口に立って実際に案内業務を体験した。4日目は広報課において行政における広報業務を学んだ後、取材を行って記事を書く広報業務を体験した。5日目は市長室において市長の執務をサポートする業務を学び、当日開催された児童による市長室の見学会や市長への表敬訪問の傍聴などを行った。

日 程： 2014/8/25(月)-8/29(金)
参加学生： 2名
活動場所： 兵庫県明石市近郊
備 考： 明石市 <http://www.city.akashi.lg.jp/>



案内業務の体験



市役所での企画発表

17. 未来を指向する地方自治体の活動への参加

三重県玉城町で様々な分野の町の取り組みを見学した。役場では職員と懇談したり玉城町に視察に来た他の自治体職員に同行し、保健福祉会館では高齢者への福祉サービス事業に参加した。また、町内に立地する大手企業の工場を見学したり、保育所や農家で職務の一部を体験し、これらが自治体の主要な産業であることを学んだ。プログラム最終日にはプログラムで学んだことを町役場職員に向けて発表した。

日 程： 2014/8/19(月)-9/1(日)
参加学生： 1名
活動場所： 三重県玉城町
備 考： 玉城町役場 <http://www.town.tamaki.mie.jp/>



最終日の報告会の様子

18. 陶板複製名画美術館を体験する

徳島県鳴門市にある陶板複製名画を展示する大塚国際美術館で、お客様に向けたギャラリートークを体験した。まず、美術館設立の経緯や、美術館の教育普及活動、陶板などについて講義を受けた。その後は、実際にギャラリートークをするための準備として、職員のガイド風景を見学し、解説原稿の作成やロールプレイングを行った。活動最終日には20名程のお客様に向けてギャラリートークをした。また夏休みに開催する子供向けツアーに参加し、美術館が取り組む様々な活動を身をもって体験した。

日 程： 2014/8/22(金)-8/24(日)
参加学生： 8名
活動場所： 徳島県鳴門市・大塚国際美術館
備 考： 大塚国際美術館 <http://www.o-museum.or.jp/>



古代ローマ人に変身する子供向けプログラムを体験



ガイドリハーサル

19. 鴨川から日本の未来を変える(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

千葉県鴨川市の文理開成高等学校にて、高校生に学習支援を行った。具体的には、授業の前日までに生徒の学力レベルに合わせた授業を準備し、2コマの授業を受け持った。活動中は参加者間で定期的にミーティングを実施し、授業の方針や内容、生徒の現状把握などに関して意見交換を行った。夏休みには2回の合宿に参加し、学習方法や進路相談以外にも、スポーツなどを一緒に行うことで生徒との信頼関係を築き上げた。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



文理開成高校の教室からの風景

日 程： 2014/8/3(日)–9/27(土)、各自定められた日程

参加学生： 3名

活動場所： 千葉県鴨川市・文理開成高等学校

備 考： 東京大学三四郎会

<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

20. 今アツいのはココ！地域課題解決の最前線でこれからのまちづくりを考える(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

地域活性化の先進的な取り組みが実施されている地域にて、その中心となるNPOや企業、地方自治体を訪問し、まちづくりや地域活性化に関わる事業の運営・広報や企画立案に携わった。また、日本の地域社会の抱える課題に対して、行政・企業・NPO・住民などの各アクターの関係を知り、それぞれがまちづくりにどのように関わっていくべきかを考え、まちづくりの現場におけるコミュニケーションや意思決定について学んだ。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



地域内で自立・循環する牧場
(千葉県いすみ市)

日 程： 2014/8/27(水)–9/21(日)、各自定められた日程

参加学生： 6名

活動場所： 徳島県上勝町・神山町、千葉県いすみ市、岩手県大槌町

備 考： 東京大学三四郎会

<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



アツい地域伝統の祭り
(千葉県いすみ市)

21. 食品流通を感じる～革新的な現場から～(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

千葉県内の農家や企業を訪問し、一次産業に関わる現場を幅広く経験した。具体的には、農場ではマルチ張り、草取り、モロヘイヤの収穫やジャガイモの選別を行い、牧場では牛舎の掃除や子牛にミルクを飲ませ、水産加工業では魚をさばく経験をした。これらの現場体験をもとに、事後研修では現在の一次産業が抱える問題点について意見交換を行い、日本総研で具体的な解決案とそれを発展させたビジネスプランを練った。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



匝瑳市石神農家で
受け入れ関係者との交流パーティー

日 程： 2014/8/1(金)–8/12(火)、8/20(水)、9/7(日)

参加学生： 4名

活動場所： 千葉県香取市、成田市、銚子市、匝瑳市

備 考： 東京大学三四郎会

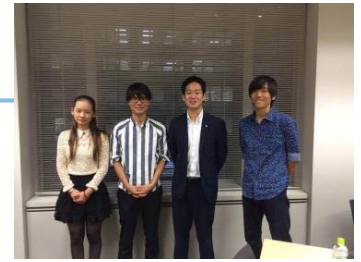
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>



香取市寺島牧場での研修の様子

22. 「お金を動かす。世界を変える。」ベンチャーキャピタルにおける就労体験(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

株式会社JAFCOにて、ベンチャー企業3社の事業計画書から投資相手を選定し、営業の支援を行うグループワークに参加した。また、産学連携本部の各務教授からベンチャー投資についての講義を受け、ベンチャーエンタープライズセンターを訪問し、ベンチャー企業を取り巻く環境について学んだ。活動の後半は、トーマツベンチャーサポート株式会社のMorning Pitchに参加し、起業家によるプレゼンの様子を見学した。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



株式会社JAFCOでの記念撮影



Morning Pitchの見学

日 程： 2014/8/27(水)-9/4(木)、各自定められた日程
参加学生： 3名
活動場所： 東京都・株式会社JAFCO、他
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

23. マーケティング視点での課題解決を実践で学ぶ(東京大学三四郎会 ミライウォーカープロジェクト)

前半は株式会社博報堂にて、2日間かけてマーケティングや生活者視点についてのレクチャーを受けた。その後3週間をかけ、「新しい定性調査を考える」というテーマのもと、3~4人のグループで既存の定性調査を調べ、それを踏まえて新しい定性調査を考え、プレゼンを行った。後半は株式会社スパイスボックスにて、ブランド戦略やプロモーション戦略についてのケーススタディーなど、実践的なプログラムに取り組んだ。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



博報堂関係者と記念撮影

日 程： 2014/8/25(月)-9/27(土)、各自定められた日程
参加学生： 4名
活動場所： 東京都・株式会社博報堂、株式会社スパイスボックス
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

24. もしあなたが市長なら？ー現役市長と取り組む日本の課題(東京大学三四郎会インターン企画)

三重県松阪市、京都府京丹後市のいずれかのインターンシップにそれぞれ参加し、抱持ちとして首長に師事し、業務の補助を行った。インターン先によって内容は異なるが、首長が出席する内部の会議、インタビュー、来客対応、外部の講演、地域のお祭り周りなどに同行した。また、代表者への挨拶や会議で使用する資料の作成など、ただ首長に同行するだけにとどまらない活動を行った。首長が不在の際には各部署の見学や市民との交流を通じ、地方自治体が抱える問題点を多方面から考察した。本プログラムでは、他の三四郎会企画と合同で事前勉強会、振り返り、成果発表会を行った。



松阪市長と記念撮影



松阪市の会議を見学

日 程： 2014/8/4(月)-9/5(金)、各自定められた日程
参加学生： 3名
活動場所： 三重県松阪市、京都府京丹後市
備 考： 東京大学三四郎会
<http://ja-jp.facebook.com/todaisanshiro/>

25. インターン事業の実施

日本ファンドレイジング協会にて、広報業務を体験した。具体的には、協会主催の「ファンドレイジング・日本2015」という1000人規模のイベントの集客アップのために、過去の申し込み者の分析を行い、実際にfacebookやブログなどで発信を行った。また、協会が主催するその他の各種イベントにも運営側として参加し、報告を発信するなど通常広報に携わった。活動期間中は他のNPOや企業と行う打ち合わせにも参加することで、多くの関係者との交流を深めた。

日 程： 2014年9月-11月の間、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 東京都港区・特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会
備 考： 特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会
<http://jfra.jp/>

26. 犯罪被害者支援に関する事業の実施

全国被害者支援ネットワークの職員や弁護士より、支援や組織の仕組み、行政との関係についてレクチャーを受けた。その後、出張講義への同行や、支援センターでの見学を行った。明治大学で開催された出張講義に同行した際は、実際に被害者や支援員より話を伺った。神奈川県支援センターを訪問した際は、相談室の見学や、支援センター長より支援の現場や現状の課題点について説明を受けた。また、事務局の蔵書にある、政府発行の白書や統計調査、施策内容、被害者の視点からの体験談など、多くの文献に触れることで、支援に対する理解を深めた。



ネットワーク関係者と記念撮影

日 程： 2014年12/1(月)-12/5(金)
参加学生： 1名
活動場所： 東京都文京区・認定NPO法人 全国被害者支援ネットワーク
備 考： 認定NPO法人 全国被害者支援ネットワーク
<http://www.nnvs.org/>

27. 農業、地域文化、自然を通じたまちづくり事業の実施

特定非営利活動法人野外教育学修センターにて、9月から11月までの3ヶ月間を通し、まちづくりの事業に参加した。9月の活動では法人代表理事よりNPOやまちづくり計画、集落の実情などの説明を伺い、県や市の職員によるまちづくり計画の村民説明会に同行した。10月は手作業での稲刈り体験と、集落を活性化させるための計画について提案し、独自の計画書を作成した。11月は計画書を参考に、NPOや村民、他大学の学生と話し合い、意見をまとめることで、まちづくりへの理解を深めた。

日 程： 2014年9月-11月、各自定められた日程
参加学生： 2名
活動場所： 新潟県魚沼市近郊
備 考： 特定非営利活動法人 野外教育学修センター「魚沼伝習館」
<http://www.uonuma-denshukan.com/>



手作業での稲刈り体験

28. 加賀温泉郷まるごとキャンパス体験事業

加賀市に滞在し、市役所職員による座学と、実際に現地を訪れての視察・体験を組み合わせ、加賀温泉郷の再開発・観光振興について学んだ。加賀市の概要、歴史、工芸・産業、「加賀温泉郷」の地区開発と、現状や観光プロモーションについて学び、観光プロモーションについては民間からの専門家を交えてのディスカッションも行った。現地へ赴き、伝統工芸九谷焼の絵付けやそば打ちを体験した。最終日は、これまでの総括として周遊バス「キャン・バス」で、一日かけて各自興味のある地域・施設の視察を行った。

日 程： 2014/8/4(月)–8/7(木)
参加学生： 5名
活動場所： 石川県加賀市
備 考： 加賀市 <http://www.city.kaga.ishikawa.jp/>



そば打ち体験



こおろぎ橋での現地学習

29. ポスト新しい公共の場づくり事業協働体験

神奈川県三浦市役所の市民共働課にて就労体験した。前半は、三浦市内を実際に見て回り、三浦市の総合計画や「まちカル」など、市の取り組みについて調べ、理解を深めた。また、神奈川県主催のイベントへの参加、三浦市社会福祉協議会の報告会や三浦市議会の見学、議会議員へのインタビューを通して、地域活性化事業において、行政が果たすべき役割について学んだ。後半は、「三崎下町商店街の今」をテーマに、毎月一回神奈川新聞に掲載される三浦市の魅力を紹介するコラム記事の執筆を行った。

日 程： 2014/9/8(月)–9/18(木)
参加学生： 1名
活動場所： 神奈川県三浦市
備 考： 三浦市 <http://www.city.miura.kanagawa.jp/>



三崎の下町風景

30. 農業・牧場作業体験@北海道

北海道美深町の農場・牧場で、農作業や牧場作業を体験した。農業体験では、キャベツ・レタス・トウモロコシ・かぼちゃ・白菜などの収穫、野菜の箱詰め・運搬、小豆畑の草取り、倉庫の整理などを行った。牧場では、羊の餌、水、草やり、搾乳、放牧、爪切り、出荷羊の体重測定、堆肥の運搬など、羊に関わる様々なことを体験した。その他にも、美深町の町内運動会やパーティへの参加、観光協会主催でカヌー体験やバーベキューへの参加など、多くの美深町の住民と交流を深め、地域産業や町おこしへの理解を深めた。

日 程： ①2014/8/18(月)–8/29(金)、②9/1(月)–9/12(金)、
③9/15(月)–9/26(金)
参加学生： 12名
活動場所： 北海道中川郡美深町
備 考： 松山農場 <http://matsuyama-farm.com/>



羊の放牧



美深町の宿舎前で

31. 農業・漁業体験と地域体験

自然農法で野菜や米を作っている農園主に指導してもらいながら、農作業や地域の方々との交流、町づくりに関する意見交換などを行った。農業体験では田んぼや大豆畑で鎌を使って草刈りをしたほか、トラクターやコンバインに試乗させてもらった。漁業体験では漁協の組合長などに話を伺ったほか、船の上からサザエ漁の様子を見学したり、実際にサザエ漁の網の引き上げ、サザエを網から外す作業を行った。地域体験では町長、まちづくり戦略室長など行政の方と会談したり、地域活動に参加し、深浦町の現在の問題点や改善点を一緒に考えた。

日 程： 2014/8/18(月)-8/30(土)
参加学生： 4名
活動場所： 青森県西津軽郡深浦町
備 考： 深浦町 <http://www.town.fukaura.lg.jp/index.html>



乗船体験



田んぼの草刈り

32. 地域で社会を学ぶ体験 in 長野・東御

長野県東御市の「地方自治」「地域振興」「介護福祉」「健康増進」分野における取り組みを学んだ。保健・医療・福祉の総合施設に滞在しながら、体操教室や親子運動教室に参加したり、心の健康をテーマに語るラジオ番組に出演した。特別養護老人ホームでは業務に同行し、巨峰の王国祭の運営を手伝った。最後にプログラムで学んだ東御市の取り組みについて発表し、市民と意見交換した。



親子運動教室に参加



巨峰の王国祭の運営補助

日 程： 2015/9/16(火)-9/25(木)
参加学生： 2名
活動場所： 長野県東御市
備 考： 公益財団法人身体教育医学研究所 <http://pedam.org/>
ケアポートみまき <http://www.cpmimaki.or.jp/>
長野県東御市 <http://www.city.tomi.nagano.jp/>
株式会社信州東御市振興公社 <http://www.yurarikan.com/>

33. 家畜の多様な役割

牧場の紹介や家畜伝染病を防ぐ為の衛生、家畜の繁殖技術についてスライドで学んだ。実習では、牛についてはホルスタインの搾乳を1人2頭ずつ行い、直腸検査を行った。豚については、豚小屋の糞の始末や餌やり体験、繁殖管理の見学などを通じて豚の飼養衛生管理について学んだ。最後に馬小屋の掃除と乗馬を体験した。



搾乳



直腸検査

日 程： 2014/8/4(月)-8/6(水)
参加学生： 3名
活動場所： 茨城県笠間市・東京大学大学院農学生命科学研究科附属牧場
備 考： 附属牧場 <http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/bokujo/>

34. 癒しの森の森林管理～おじいさんは山へ柴刈りに～

第一回目は芝刈りや柴刈り、柴垣作り、間伐などを行った。芝刈りでは実際に芝刈り機に乗り、山中湖湖畔の広場の芝刈りをした。柴刈りでは演習林の見通しを良くするため、柴を鉈や手持ち式の柴刈り機を用いて刈り取り、その柴を用いて柴垣という新しい景観づくりをした。第二回目は落ち葉かきや落ち葉焚き、薪割りなどを行った。落ち葉かきでは、腐葉土が息に適さないアカマツの林を守るため落ち葉をかき集め、それを用いて落ち葉焚きをすることで暖を取るだけでなく、焼き芋やBBQに活用した。森林は、夏と冬では印象が大きく変わり、歩くたびに新たな発見があった。

日 程： ①2014/9/4(木)-9/5(金)、②12/22(月)-23(火)
参加学生： 2名
活動場所： 山梨県南都留群・
東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林
備 考： 富士癒やしの森研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/fuji/>



柴垣の完成



落ち葉焚きの準備

35. 伊豆の体験活動 –南伊豆という一地域との連携に学ぶ–

第一回目は、害獣として駆除されたイノシシ1頭を解体し、肉をミンチに加工してソーセージを作った。第二回目は、チェーンソーを用いた林業作業を体験し、くさびを用いた昔ながらの間伐方法を学んだ。一人2本程度木を伐採し、伐倒した木は枝払いと玉切り(幹を既定の寸法に切り分けること)を施して運搬し、その一部は薪に加工した。最終日は、自然署の収穫や出荷、しめ縄づくりも体験した。地元の方々からは、現代日本における林業の実態について詳しく学んだ。

日 程： ①2014/10/11(土)-13(月)、②12/21(日)-23(火)
参加学生： 3名
活動場所： 静岡県南伊豆町近郊
備 考： 樹芸研究所 <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/jyugei/>



イノシシ肉でのソーセージ作り



自然署の出荷準備

36. 北海道の遺跡博物館における学芸員体験

人文社会系研究科附属施設の常呂実習施設内にある、常呂資料陳列館と「ところ遺跡の森」において学芸員の活動を体験した。縄文文化やトリニタイ文化など北海道の歴史と文化を学び、施設内の博物館や竪穴式住居を見学した後、3日目には展示物の模擬解説や、土器接合作業、勾玉制作など学芸員の業務を体験した。その他、網走市内の北方民族博物館などを見学した。

日 程： 2014/9/16(火)-9/19(金)
参加学生： 6名
活動場所： 北海道北見市常呂町
備 考： 常呂実習施設・常呂資料陳列館
<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/tokoro/>



ところ遺跡の森見学



土器の接合作業を体験

37. 浜名湖フィールドワーク体験

閉鎖性内湾である浜名湖で、附属水産実験所の教職員の指導のもと水圏生物を対象とする研究の一面を体験した。まず、船から採取した海水、プランクトンや泥などの塩分濃度と酸素溶存量を記録するという、湾内の水質調査を体験した。2日目はプランクトンやバントス、魚を採集し、図鑑を用いて種を同定し、多種多様な生物形態を体感した。最終日には浜名湖の外縁を回り、藻場や河口、砂浜や砂礫浜など地理的に浜名湖を確認した。

日 程： 2014/9/8(月)–9/10(水)
参加学生： 3名
活動場所： 静岡県浜松市
備 考： 東京大学大学院農学生命科学研究科 附属水産実験所
<http://www.se.a.u-tokyo.ac.jp/japanese.html>



釣りサンプリングの成果



浜名湖へ出航

38. 農村版大学コンソーシアム木島平校夏期講座—集落や他大学の学生との交流から今の農村を学び体感—

長野県木島平村で、糠千地区の住民や他大学生と一緒に協同プロジェクトに取り組み、農村の産業・歴史・文化・暮らしと生業などを体験した。プロジェクトは糠千地区の名所を写真で選ぶ「糠千十景」、住民が集う場所となる旧公民館跡地のベンチ作り、ダム付近の空きスペースに休憩所制作の3グループに分かれた。村を散策した後それぞれのプロジェクトに取り組み、5日目は住民と交流できるよう学生でカフェ「ぬかふえ」を運営し、プロジェクトの成果を報告した。

日 程： 2014/8/7(木)–8/12(火)
参加学生： 5名
活動場所： 長野県木島平村糠千地区
備 考： 農村文明塾 <http://nousonbunmei.jp/>



大工の指導のもとベンチ作り



学生が企画した「ぬかふえ」で交流

39. 希望学プロジェクト ふくい体験プログラム

若狭コース、越前コースのいずれかに参加し、福井の産業、文化体験や地元住民との交流を行った。若狭コースでは、福井県立大学にて希望学特別講義を受講し、漁家民宿体験、漁協体験、関西電力美浜発電所見学、自治体訪問、地元の高校生との交流等を行った。越前コースでは、「農」と「環境」のまちづくり体験、眼鏡企業での就労体験、木工工芸の会社訪問、福井の恐竜ビジネス体験、地元の高校生との交流等を行った。いずれのコースについても、プログラムの最終日に各コースのテーマについて、福井の関係者の前で発表を行った。

日 程： 若狭コース：2014/9/3(水)–9/9(火)、
越前コース：2014/9/23(火)–9/29(月)
参加学生： 11名
活動場所： 福井県嶺北地区、嶺南地区
備 考： 福井県庁 <http://www.pref.fukui.jp/>



漁業体験(若狭コース)



ヤマト工芸にて(越前コース)

40. 大阪府教育行政体験

大阪府教育委員会にて、就労体験した。活動の前半では、大阪府の小中高英語教育について、調べた内容や考えから政策提言第一案を作成し、大阪府の英語教育改革についての説明と教育長よりアドバイスを受けた。その後、実際に小中高の英語の授業を見学した。活動の後半では、それらを踏まえて政策提言を練り直し、職員よりアドバイスを受け、最終的に教育長に政策提言を行った。また、活動中は会議や府立図書館の見学、様々な部署を訪問することで、大阪府教育委員会の仕事の雰囲気を感じた。

日 程： 2014/8/22(金)-9/5(金)

参加学生： 1名

活動場所： 大阪府大阪市

備 考： 大阪府教育委員会

<http://www.pref.osaka.lg.jp/kyoikusomu/homepage/index.html>



英語教育に熱心な学校



活動中に使用したデスク

01. 世界の情報発信の中心地ニューヨークの脈動を感じてみよう

在米の卒業生が講師となり、実業体験をもとにアメリカでの法務、金融、メディア、医療、研究、国連などでの業務の説明を受け、質疑応答・ディスカッションを行った。訪問先は、ニューヨーク証券取引所、野村証券、コロビア大学、NY地方裁判所、国連、大戸屋、ロイター通信、JETRO、ミキハウス、マウントサイナイ病院、ブルーンバーグ（通信社）、デイビスポーク（弁護士事務所）、タイガーパシフィック（投資銀行）で、卒業生からのアドバイスにより将来の選択肢が広がった。

日 程： 2014/8/25(月)–8/30(土)

参加学生： 12名

活動場所： アメリカ ニューヨーク州

備 考： NY銀杏会 <http://www.ny-ichokai.org/>

さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp>



ニューヨーク証券取引所



野村証券

02. アメリカで事業をすることの素晴らしさとチャレンジ(内側からアメリカ社会をみてみよう)

シカゴを主とした米国の企業や大学で活躍する卒業生を訪問し、様々な話を伺い、ディスカッションを行った。製鉄や製薬のメーカー系企業では、業界の動向をはじめ、世界のライバル企業を相手にどうやって戦い、逆境を乗り越えてきたのかなどについて話を伺った。人の多様性を理解するだけでなく、それを活かせる環境作りが大切になること、ローカルとグローバルのそれぞれの良さを潰さずに共に活かす難しさについても話し合った。日本の医療問題とその教育の遅れ、キャリアアップ、男女問題と労働問題、失敗から何を学びリスクをどう避けていくべきかといったことについても議論を深めた。

日 程： 2014/8/4(月)–8/8(金)

参加学生： 10名

活動場所： アメリカ イリノイ州

備 考： シカゴ赤門会

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>

さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp>



ノースウェスタン大学



新日鐵住金

03. オーガニック農場での Sustainable agriculture 体験(米国)

毎日、朝8時から13時まで農作業、14時から15時までハウスワーク(家事手伝いや雑務)を行った。その日に必要な作業は朝食後に適宜振り分けられ、作業の内容は毎日のように変わるほど多様だった。農作業は、作物(ニンジン、きゅうり、ズッキーニ、オクラ、トマト、かぼちゃ)の収穫、花束作り、雑草取り、馬糞や牛糞、鶏卵の回収、ニワトリやヤギの餌やり、ヤギの爪切り、牛の乳搾りなどが主な作業で、ハウスワークは、ニンニクを束にする、ニンジンを切る、卵を洗う作業などが中心だった。基本的に午後と週末は自由に活動した。

日 程： ①2014/8/17(日)–31(日)、②8/31(日)–9/14(日)、

③9/14(日)–9/28(日)

参加学生： 9名

活動場所： アメリカ ニュージャージー州

備 考： さつき会アメリカ <http://satsukiamerica.todai-alumni.jp>



かぼちゃの収穫



毎週火曜日の農作物販売

04. ロサンゼルスにおける日系人／日本人の歴史と現在を学びドキュメンタリー・フィルムを制作する

ロサンゼルス映画制作専門学校であるISMPにて、ドキュメンタリー制作に関する知識と方法論を学んだ。その中で各自簡単な映像を撮り、編集作業を通してドキュメンタリー制作のイメージをつかんだ。その後、テーマに沿って事前にアポイントメントをとった人々に会い、素材となるインタビューを様々な角度から行った。各チームは、プロデューサー・監督・シネマトグラファーの役割分担のもと、撮った映像をISMPで編集し、そのラフカットからのフィードバックを元に、帰国後2ヶ月をかけて編集作業を完成させ、ドキュメンタリー・フィルムを制作した。

日程：2014/9/8(月)–9/17(水)
参加学生：6名
活動場所：アメリカ カリフォルニア州
備考：南加東大会 <http://www.nanka-todaikai.com>



各家庭を訪問してのインタビュー

05. Work experience in the international venture business in Boston

ボストンにあるベンチャー企業、Global Project Design(GPD)で10日間のインターンシップを体験した。前半はプロジェクトマネジメントやGPDの商品である“Team Port”の扱い方の講義を受け、後半はTeam Portを活用して参加者各自が設定したテーマのシミュレーションを行った。また、Google社員や企業家が集まるカフェで出会った人の話を聞いたり、MicrosoftやAutodeskのオフィスを見学し、ボストン現地で働く人々と交流した。

日程：2014/9/8(月)–9/18(木)
参加学生：5名
活動場所：アメリカ マサチューセッツ州
備考：Global Project Design <http://www.gpdesign.com/>



GPD社長からの講義



プログラム終了後の記念写真

06. グランゼコールでの研修、およびパリで働く卒業生から学ぶ

エリート養成機関であるグランゼコールの最高峰、Ecole Polytechnique(EP)の学生寮でルームシェアをしてEP学生と交流しながら、国際機関を訪問した。UNESCO日本代表部、セーブル国立製造所及び美術館、Airbus、欧州特許商標弁理士事務所、OECD本部などを訪問した。フランス赤門会主催の交流会では海外で働く意義について卒業生から話を伺い、EP関係者との交流会では東大とEPキャンパスの国際化と日仏の原子力の現状について発表した。帰国後は在日フランス大使館で日仏文化の違いをプレゼンする機会を与えられ、時間が経ってからプログラムを振り返る場になった。

日程：2014/9/18(木)–9/26(金)
参加学生：9名
活動場所：フランス パリ
備考：Ecole Polytechnique <http://www.polytechnique.edu/>



EPの日本語クラスを受講



原子力・代替エネルギー庁訪問

07. 女子学生のためのフランスの文化・ビジネス～研修体験、および欧州で働く卒業生から学ぶ～

前半は主に本学卒業生が代表を務めるNPO団体で卒業生の日々の業務に同行した。Paris Design WeekにNPOが出展する為の、ギャラリーの飾り付けや必要備品の買い出し、招待状の作成や配布をした。後半は主に見本市、美術館やフランス文化に関係する施設を訪問した。パリではMaison et objet、ロンドンではTOKYO DESIGNERS WEEK in LONDONやDECOREXといった見本市を見学し、それらの違いを議論した。

日 程： 2014/8/28(木)–9/30(火)、各自定められた日程
参加学生： 5名
活動場所： フランス パリ近郊
備 考： 仏日芸術伝統工芸協会 <http://aamfrjp.com/>



パリ国際大学都市日本館館長の講話



藤田嗣治作の絵画前で記念撮影

08. 国際インターンシップ ～グローバルな環境で仕事する楽しさを学ぶ～

オーストリア第二の都市グラーツで2ヶ月間のインターンシップを体験した。アナログIC企業にて、設計と広報の部署に配属された。広報の部署では、Medical & Industry のCT部門が日本市場に発信するのに効果的な広告を考え作成した。設計の部署では、新しい技術の効果を測定するためのテスト準備やプログラムを制作した。2か月間オーストリアで就労体験をし、技術だけでなく英語でのコミュニケーションや業務の進め方を学んだ。

日 程： 2014/8/1(金)–9/30(火)
参加学生： 2名
活動場所： オーストリア グラーツ
備 考： ams Japan <http://www.ams.com/jpn>



ams社員と記念撮影



ams本社の外観

09. iUP・Veneto Experience

ヴェネチアを地図なしで自ら歩き回り、町の構造、家や広場の作り、人々の動きをじっくり観察した。プログラム中盤以降は、ヴェネチア出身の建築家であるカルロ・スカルパが設計した美術館や、アルティヴォレにある“Tomba Brion(ブリオン家墓地)”を訪れ、建築物と空間の相互作用について考察した。最後にプログラムで学んだことをまとめ、英語で一人ひとりプレゼンテーションをした。

日 程： 2014/9/7(日)–9/24(水)
参加学生： 12名
活動場所： イタリア ヴェネト州
備 考： Veneto Experience <http://www.venetoexperience.com/>



Tomba Brion



Tomba Brionを訪れた感想を共有

10. TOPS (Tokyo Oxford Programme of Summer)

前半2週間は、西洋古典学(オデュッセウス・古典レトリック)と法学(契約法・不法行為法)の授業を受けた。授業は5~8人の少人数で、双方向的なゼミ形式で行われた。週末には郊外に出向き、田園風景や古城、イギリス庭園を見学したり、法曹学院や裁判所、弁護士事務所の見学の機会も設けられた。後半2週間は各学生が自ら活動をデザインし、ケンブリッジ訪問や最終プレゼンテーションに向けた準備を行った。宿泊は学生寮を利用し、共同生活を営んだ。

日 程: 2014/8/4(月)-8/31(日)
参加学生: 8名
活動場所: イギリス オクスフォード大学、他
備 考: オクスフォード大学・ベイリオル・コレッジ
<http://www.balliol.ox.ac.uk/>
オクスフォード大学・クライスト・チャーチ
<http://www.chch.ox.ac.uk/>



コッツウォルズ

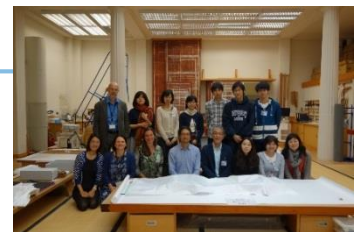


オクスフォードの田園風景

11. イギリスのなかの「日本」体験

イギリスで日本文化がどのように紹介され受け止められているのかを知り、ミュージアム、研究所、国際交流機関などが果たす役割を検証した。大英博物館では日本ギャラリーの評価と春画展について、国際交流基金ロンドン事務所では日本文化の発信方法と日英の文化政策比較について、それぞれ職員と懇談した。ヴィクトリア&アルバート博物館などロンドン市内にある博物館で各自が「日本」を発見し報告し合った。後半ではノリッチのセインズベリー日本藝術研究所とイースト・アングリア大学を訪れ、日本研究の現状と課題について議論した。

日 程: 2014/9/1(月)-9/7(日)
参加学生: 8名
活動場所: イギリス ロンドン、ノリッチ
備 考: 人文社会系研究科文化資源学研究専攻
<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/CR/>



大英博物館日本部門のスタジオ



リサ・セインズベリー図書館で資料閲覧

12. ネパールスタディーツアー2014

JICAがシャンジャ地区で実施した、学校衛生改善プロジェクトの定着具合を調査した。校舎付近に投棄されたごみの量、ごみ箱の設置状況、清掃の頻度などを複数の学校で調べた。ごみ拾いが徹底されている所や、学生が訪問する直前に急いでごみ箱を設置する所など、学校によってプロジェクト定着に差があることを発見した。その他、食生活やごみ問題について人形劇を上演、環境保全のNGOを訪問、現地で活動するJOCV隊員が企画した日本祭の準備に携わるなどし、最後にJICAネパール事務所まで調査結果を報告した。

日 程: 2014/9/1(土)-9/19(金)
参加学生: 6名
活動場所: ネパール シャンジャ郡、カスキ郡
備 考: 2013年に学生企画で実施したネパールスタディーツアー参加学生が企画を引き継ぎ、実施された。



シャンジャで訪問した聾学校



カトマンズにあるNPO訪問

13. 新興国インドでのマーケティングリサーチ

インドに進出している日系企業でインターンを体験した。「どのような商品をどのように売ればインドの人々の生活がより良くなるか」を課題とし、インド市場に日系企業が進出できる可能性を探るというもので、家庭訪問・店頭調査・デスクリサーチを行い、最終日にプレゼンテーションを行った。マーケティングリサーチのほかにも、インド工科大学の学生たちと国立博物館やヒンドゥー寺院を見学し、インドの歴史や宗教への理解を深めると共に、互いの学生生活を語り合い交流を深めた。また実際にインド工科大学の授業も受講した。

日 程： 2014/8/17(日)-8/23(土)
参加学生： 4名
活動場所： インド ニューデリーと近郊
備 考： infoBRIDGE <http://www.infobridgeasia.com/>
備 考： インド赤門会
<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>



インド工科大学の学生と



タージマハル見学

14. インド・バンガロールで卒業生と一緒に国際体験

電通インド、インド三菱商事、トヨタキルロスカーやGEを訪問し、会社の説明を受け、ディスカッションや工場、その他の設備見学を行った。Infosys、BIOCONといった世界に誇るインドの会社では、その創始者から直々に会社についてのプレゼンテーションを伺い、大変有意義な時間を過ごすことができた。またインド科学大学院やインド経営大学院バンガロール校を訪れ、授業を受講したり、バトミントンをして交流を深めた。

日 程： 2014/8/24(日)-8/31(日)
参加学生： 5名
活動場所： インド バンガロールと近郊
備 考： インド赤門会
<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>



BIOCONの会長と



世界遺産ハンピ見学

15. インド・ニューデリー&ダーズリンで卒業生と一緒に国際体験

前半はニューデリーに滞在し、日本大使館・UNIDO・電通・JICA・インド新日鉄住金・丸紅などを訪問し、卒業生からインドでの生活や職業観、人生全般に関するアドバイスを伺った。デリーメトロの試乗やスラム街を訪問し、スラム街の生活向上を支える簡易診療車の見学を通じて、日本のODAがどのように機能しているのかも学んだ。後半はダーズリンに移動し、マカイバリ茶園でホームステイをし、紅茶のテイスティングやバイオダイナミック農法、フェアトレードについて学び、大自然の息吹に触れた。その後、日本山妙法寺に一泊し、日蓮宗の行いや歴史について学んだ。

日 程： 2014/9/14(日)-9/27(土)
参加学生： 8名
活動場所： インド ニューデリーとダーズリン
備 考： インド赤門会
<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>



デリー大学の学生と国立博物館見学



プログラム最終日茶畑で記念撮影

16. 医学と平和

カンボジアのプノンペン、シェムリアップを拠点にし、カンボジアの歴史・公衆衛生について学んだ。プノンペンでは、日本の支援で建設された国立母子保健センター、技師装具士学校並びにWHOカンボジア事務所を訪問し、それぞれの場所で活躍している邦人や現地職員より、これまでの取り組みや今後の課題について話を伺った。また、残虐な大量虐殺を後世に伝えるために作られたトゥールスレン博物館を見学し、紛争の様子を理解した。シェムリアップでは、NGOかものはしプロジェクトを訪問して現地の女性が働く工場の見学や、JMAS(日本地雷処理を支援する会)の事務所を訪問し、地雷・不発弾撤去現場を見学した。

日程：2014/8/1(金)–8/7(木)
参加学生：5名
活動場所：カンボジア プノンペン近郊
備考：東京大学医学系研究科国際地域保健学教室
<http://www.ich.m.u-tokyo.ac.jp/>



JMASによる地雷についての啓蒙活動



撤去した地雷を爆破する現場にて

17. UNIVERSITI TEKNOLOGI PETRONAS – THE UNIVERSITY OF TOKYO (UTP–UTokyo) SUMMER HOLIDAY PROGRAM

マレーシアの私立大学、ペトロナス工科大学のサマースクールに参加した。主な活動内容は、マレー語、ガムラン(民族音楽)、民族舞踊などの伝統文化を学び、最終日のフェアウェルパーティーにてガムランと民族舞踊の成果発表を行った。また、古都マラッカへのフィールドトリップや首都クアラルンプールでのモスク見学、タイピンにある村でのホームステイを通して日常としてのイスラム文化を体験し、理解を深めた。活動中はラフティングなど様々なアクティビティを通して、現地学生や他国からの留学生、教職員や同じプログラムに参加した群馬大学、広島大学の学生と交流し、様々な価値観に触れた。

日程：2014/9/7(日)–9/21(日)
参加学生：10名
活動場所：マレーシア ペラ州・ペトロナス工科大学
備考：Universiti Teknologi PETRONAS <http://www.utp.edu.my/>



サマースクールでお世話になった皆様と



フェアウェルパーティー

18. 起業するならシンガポールでしよう

起業に対する政府のサポート体制、シンガポールのアジアのハブとしての役割や訪問企業について事前に調査した。訪問した各企業、政府機関では、実際にインタビューして、シンガポールでのビジネスのメリット・デメリットを伺った。日本にいたら知ることができないような新しい業態のビジネスがあることを知り、実際に起業した卒業生から貴重な体験談を伺った。最終日には、インタビューを通して学んだことを、淡青会関係者の前で発表した。

日程：2014/8/3(日)–8/9(土)
参加学生：2名
活動場所：シンガポール
備考：淡星会
<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>



在シンガポール日本国大使館



Accenture

19. 上海および上海近郊の地方都市を中心とした国際交流体験活動

上海NYU、南京大学、南京師範大学、馬鞍山師範学校、復旦大学、杉達学院と地域・国立/私立・特徴の異なる多くの大学を訪問した。特に南京師範大学の学生とは2泊3日寝食を共にし、互いの学校紹介に加え、日本と中国それぞれのいいところと悪いところを日中の学生が互いに考え議論した。在中日本人との交流に関しては、安徽開源軟件有限公司、office339を訪問し、企業説明や質疑応答の機会を得、なぜ中国で事業を始めたのか、今の日中関係についてどう感じているか、今後何をしたいと思っているのかなど話を伺った。

日 程： 2014/9/10(水)-9/18(木)

参加学生： 7名

活動場所： 中華人民共和国 上海と近郊

備 考： 上海銀杏会・東大北京校友会

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>



南京師範大学の学生と馬鞍山で農家楽



静安寺

20. 東大生訪中団 ～中国のトップ大学・現地企業等の訪問及び交流～

北京大学、清華大学や復旦大学を訪問し、日本語学科の学生とキャンパスライフや職業観などについて討論した。Baidu、Founderといった中国のトップ企業や三菱商事、NEDO、日本大使館や日本政府関係者を訪問し、成長戦略、中国で企業展開する上での特異点、中国という国をどのように捉えているかなどを伺った。また万里の長城や上海の金融街などを見学し、そのスケールの大きさに圧倒され、グローバルに対する気持ちを新たにした。

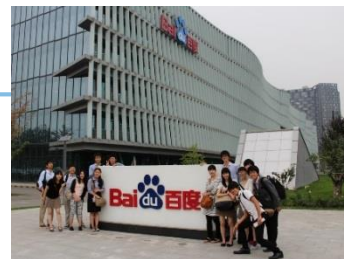
日 程： 2014/9/9(火)-9/18(木)

参加学生： 14名

活動場所： 中華人民共和国 北京、上海

備 考： 東大北京校友会・上海銀杏会

<http://www.alumni.u-tokyo.ac.jp/community/dousoukai/overseas.html>



百度 (Baidu)



上海の復旦大学での交流会

21. ハーバード大学医学部研究室の訪問・見学

本学卒業生が主宰しているハーバード大学医学部研究室を訪問・見学した。具体的には、Beth Israel Deaconess Medical Center、Dana-Farber Cancer Institute、Massachusetts General Hospital、Shriners Hospitals for Children、Harvard School of Public Health内の9つの研究所を訪問した。研究室では、研究内容を伺う、研究予算や研究倫理について議論する、麻酔科のカンファレンスに参加するなどし、アメリカで研究することについて知見を広めた。最終日には参加学生各自の学びを共有し、日米の研究環境の違いについてディスカッションをした。

日 程： 2014/8/19(火)-8/25(月)

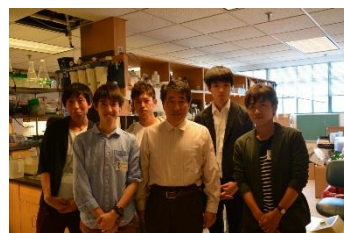
参加学生： 5名

活動場所： アメリカ マサチューセッツ州

備 考： ハーバード大学医学部 <http://hms.harvard.edu>



Harvard Medical School校舎



プログラム企画者の卒業生と記念撮影

01. 再生医療の研究開発に触れる

東大病院口腔外科ではティッシュ・エンジニアリング部と連携して骨・軟骨のトランスレーショナルリサーチに取り組んでいる。本プログラムでは、再生医療の研究開発の現場を見学し、細胞培養、再生組織作製などを体験した。具体的には、軟骨細胞を培養し、培養した軟骨細胞を薄く切断して染色液で見やすくし、顕微鏡下でどのくらい組織が成長しているかを確認した。また、東大病院にて口腔外科の診察の様子や、実際の手術の様子を見学するなど、再生医療をとりいれながら先進医療を進めている口腔外科の臨床現場を見学した。

日 程： 2014年9月-12月、定められた日程
参加学生： 1名
活動場所： 東京大学医学部附属病院ティッシュエンジニアリング部
備 考： 東京大学大学院医学系研究科 軟骨・骨再生医療寄付講座
<http://square.umin.ac.jp/ct-e/t-e/index.html>

02. 「医学の知」の体験

「手術とは何か？ 体内臓器を探ってみましょう！」

実際の手術(胃・甲状腺・乳腺)を見学した。手術室の中では、術者のすぐ後ろに立って見学することで、医師(術者・助手・麻酔医)・看護師その他大勢の医療従事者が関与している手術の空気を感じ、彼らが一体となって患者さんを治療している姿を見学することができた。また、脂肪の色や質感、大胸筋の美しさ、小腸の表面の滑らかさ等を実際に観、各器官が人間の生存に必要な機能を兼ね備えていながらも、非常に精巧にできていることに感動した。

日 程： 2014年9月-10月、各自定められた日程
参加学生： 3名
活動場所： 本郷キャンパス 医学部
備 考： 東京大学医学部附属病院 消化管外科学
http://www.h.u-tokyo.ac.jp/patient/depts/ses_md/index.html
東京大学大学院医学系研究科 医学教育国際研究センター
<http://www.ircme.m.u-tokyo.ac.jp/>

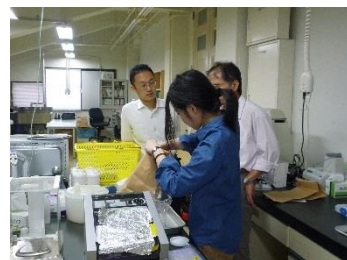


東大病院の手術見学

03. 農地環境サンプルの放射性核種の検出と測定

農産物や農地の放射性物質について、その検出・測定方法を通して、農地環境の実態に触れた。具体的には、対象とする農地環境において、どのようなサンプルがどのように採取され、前処理が行われるかを学び、サンプリングされた土壌や作物について測定を行った。さらに、得られたデータを農地環境でのサンプリングポイントと照らし合わせることで、農地環境における放射性物質の不均一性や分布の特徴を学んだ。また、アイソトープ研究室にてGEMなど分析機器の見学を行った。

日 程： 2014/8/20(水)、9/8(月)
参加学生： 1名
活動場所： 弥生キャンパス 農学部2号館
備 考： 東京大学農学部の復興支援:
<http://www.a.u-tokyo.ac.jp/rpjt/index.html>



放射性物質の検出・測定

04. 脳・身体と精神のシステム論的研究への誘い

かつて心と身体(からだ)は別々のものとして扱われてきたが、脳科学をはじめとした近年の科学の目覚ましい発展によって、それらが文字通り、切っても切れない関係にあることが明らかになってきた。心と身体はどのような関係にあるのか、それらを良い状態に保つには、どのような方策が考えられるか、といった問題に科学的に迫ることの出来る時代が到来した中で、そうした問題に対して、様々な角度から研究が進められている。本プログラムでは、そのような日々の研究の雰囲気を実際に体験した。具体的には、実験に立ち会ったり、研究ミーティングや論文紹介に参加するなど、各種のアクティビティに参加した。

日 程： 2014年8月-12月、各自定められた日程
参加学生： 6名
活動場所： 本郷キャンパス 教育学部棟
備 考： 東京大学大学院教育学研究科 身体教育学コース
<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/~tkweb/>

05. クラスタ計算機の試作と並列計算

並列計算が実際にどう行われているかをハード、ソフトの両面で学び、そのスキルを獲得した。具体的には、コンピュータの分解と組み立て、複数のコンピュータの並列化、通信ライブラリMPIを用いた並列計算の基礎を学んだ。また、プログラムの最後には人工知能を利用した五目並べのゲームソフトの開発を行った。活動中は教員、大学院学生、同じプログラムに参加した高等専門学校(高専)の学生、留学生との交流を通し、多くの刺激を受けた。



並列計算の様子

日 程： 2014/9/2(火)-12(金)
参加学生： 1名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻
奥田研究室 <http://www.multi.k.u-tokyo.ac.jp/>

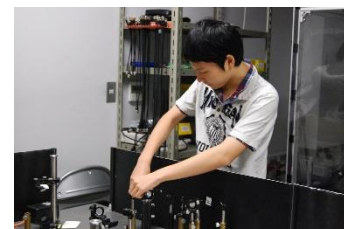
06. 光学・量エレ系研究室短期体験

一定期間研究室で教員、大学院学生と活動を共にすることで、大学での研究がどのように行われているのかを、実際に体験した。具体的に、大学院学生の指導のもと、全正常分散型モード同期Ybファイバーレーザーでの波長板の角度変化による出力特性・スペクトル幅・パルスの時間幅の変化の測定と、ナノロッドの作製、赤外分光器による光学特性の評価を行った。また、本読みゼミや研究室会議への参加、毎朝先生と行う打ち合わせでは、前日の成果報告と当日の研究内容の確認を行った。



ナノロッド制作の様子

日 程： 2014/9/22(月)-10/3(金)
参加学生： 2名
活動場所： 生産技術研究所 光電子融合研究センター
備 考： 東京大学生産技術研究 志村研究室
<http://qopt.iis.u-tokyo.ac.jp/pub/index.html>



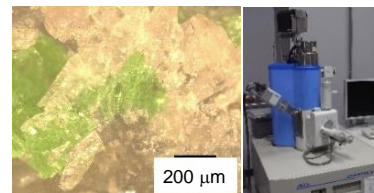
光学系操作の様子

07. 持続性循環資源工学研究室短期体験

高温での実験、真空機器の取り扱いを体験するほか、顕微鏡、分析器や研究室独自で開発した実験装置などに触れた。実験以外にも、研究打ち合わせや進歩報告会、リサイクル工場の見学ツアーなどへの参加を通して、研究活動とはどういうものか体感した。本活動では、研究の目的と方法について理解し、目的意識をもって実際の実験に触れることが重視されている。今回は主に鈳物について、試料調整を行い、XRDで同定し、最後に鈳物の生成について考察を行った。



金属塊を高速精密切断機で加工



(左) 鈴木石 ($\text{BaV}^{4+}\text{Si}_2\text{O}_7$) と推定される鈳物の光学顕微鏡観察

(右) 体験利用した走査型電子顕微鏡

日 程: 2014年10月-12月、定められた日程

参加学生: 1名

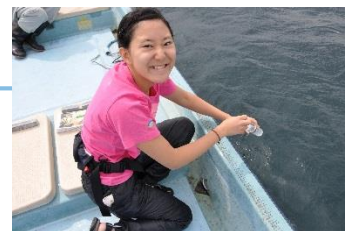
活動場所: 生産技術研究所 サステイナブル材料国際研究センター

備考: 東京大学生産技術研究所 前田研究室

<http://maedam.iis.u-tokyo.ac.jp/>

08. 海洋微生物ナノ計測体験

原子間力顕微鏡(AFM)を用いた海洋微生物の研究を行った。前半の4日間は、教員や大学院学生よりAFMの使い方のレクチャーを受け、深海に生息するゴエモンコシオリエビでAFM実習を行った。また、海洋研究開発機構の福場辰洋先生より海洋工学や海洋微生物についての講義を受けた。後半の5日間は、海洋研究開発機構の見学や、三崎臨海実験所およびお台場海浜公園にて海洋微生物サンプルの採取を行い、AFMで観察を行った。海洋研究の可能性と必要性を学び、最後にラボセミナーにて英語で成果発表を行った。



三崎臨海実験所の船でサンプル採取

日 程: 2014/9/8(月)-9/24(水)、定められた日程

参加学生: 1名

活動場所: 生産技術研究所、及び各フィールドワーク先

備考: 東京大学生産技術研究所 藤井研究室/西田研究室

http://www.microfluidics.iis.u-tokyo.ac.jp/index_j.html



AFMによる観察

09. 最先端物質科学入門:「固体の中の宇宙」

表面科学の研究の最前線に触れた。コースは午前午後を通じた全4日間で、1日目は実習に必要な表面物理学の基礎知識の講義を受け、2, 3日目は実習、最終日は実習で得た成果について、口頭での発表会を行った。実習は理論コースと実験コースからなり、教員や大学院学生の指導のもと、理論コースでは各々シミュレーションを行い、物質表面で起こっている量子現象を計算機上で再現して可視化した。また、実験コースでは、走査トンネル顕微鏡を動かして、シリコン基板や銀単結晶の表面の原子像の観察を行った。

日 程: 2014/9/16(火)-9/19(金)

参加学生: 8名

活動場所: 柏キャンパス 物性研究所

備考: 物性研究所 物性理論研究部門 杉野研究室

<http://sugino.issp.u-tokyo.ac.jp/public/>

物性研究所 ナノスケール物性研究部門 長谷川研究室

<http://hasegawa.issp.u-tokyo.ac.jp/hasegawa/Welcome/Welcome.html>

10. 核融合プラズマ実験入門 ―人工太陽は創れるか?―

講義と実験が組み合わされた「新しいタイプの核融合エネルギー開発の入門プログラム」に参加し、核融合エネルギー開発の現状と将来についての理解を深めた。講義では、核融合の技術、開発の歴史について学び、人工太陽はどのように創るのかを考えた。実験では、プラズマを直接観察できる小型実験で理解を深め、大型実験に参加し、核融合炉の経済性を高める基礎研究を行った。

日 程： 2014/9/8(月)–9/12(金)
参加学生： 1名
活動場所： 本郷キャンパス
備 考： 東京大学新領域創成科学研究科 小野・井研究室
<http://tanuki.t.u-tokyo.ac.jp/>

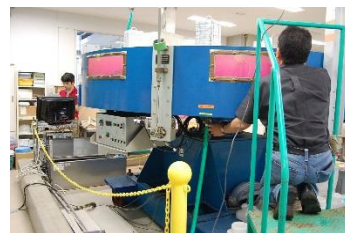
11. 水理模型を用いた津波防災堤防の実験

東日本大震災で全壊した大船渡湾防波堤の再建設には、湾内環境も考慮したデザインの堤防が求められている。本プログラムでは、6つ堤防デザインを考案し、それぞれの防災効果を実験して測定した。回転水槽に設置した大船渡湾の海底地形の水理模型に、考案した堤防を設置し、湾内と湾外の水位差(3cm)によって波を起こし、波の伝達速度と最大波高から堤防の効果を評価した。

日 程： 2014/9/8(月)–9/12(金)
参加学生： 1名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟1階海洋環境実験室
備 考： 東京大学新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻
佐藤研究室 <http://lemons.k.u-tokyo.ac.jp/>



模型を使用して波を起こす準備

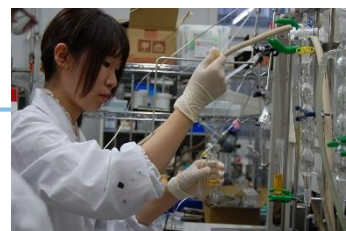


波の伝達速度の記録

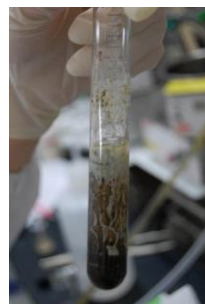
12. イオン液体の実験を通して学ぶ化学研究体験

イオン液体の合成と分析及びそれらを用いた反応実験を行った。イオン液体について説明を受けた後、大学院学生指導のもとイオン液体の合成、イオン液体を触媒に用いた鈴木宮浦クロスカップリング反応、ヘック反応を行った。生成した化合物は、NMRによるスペクトル測定やGC-Mass等を用いた定量分析で、目的の生成物が得られているか確認した。様々な装置を利用して化学研究を体験した。

日 程： 2014/9/8(月)–9/12(金)
参加学生： 2名
活動場所： 柏キャンパス 基盤棟
備 考： 東京大学新領域創成科学研究科複雑理工学専攻 佐々木研究室
<http://sas.k.u-tokyo.ac.jp/>



イオン液体の生成過程



イオン液体を利用した触媒反応

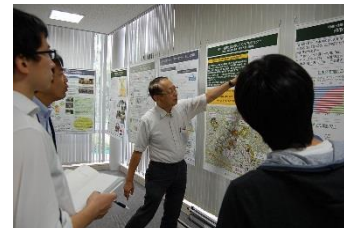
13. スマートフォン内蔵の加速度センサによる人間行動認識手法の研究

スマートフォンの加速度センサを利用して、日常生活の行動を認識する研究手法を体験した。階段の昇降動作や被験者の属性による歩行パターンの違いなど参加学生各自がテーマを設定し、スマートフォン内蔵の加速度センサや気圧センサを用いてデータを取得した。教員から測定方法等についてアドバイスを受けたり意見交換しながら、各自が実験を進め最終日に結果を報告した。また、柏キャンパス内にある他の研究所や研究室を見学した。

日 程： 2014年8月-9月、各自定められた日程
参加学生： 2名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科 人間環境情報学分野
<http://www.lhei.k.u-tokyo.ac.jp/>



実験の各自の進み具合を報告

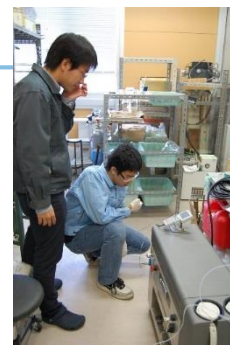


高齢社会総合研究機構の見学

14. 環境調和型技術としての超臨界水を学ぶ

超臨界水の工学的応用に関する実験を行った。超臨界水の応用例には主に、①廃棄物の無害化(分解)、②廃棄物から有価物を回収、③水中での有機合成、④有機物からの有用成分回収、などがあることを学び、本プログラムでは①と③の実験を体験した。前半は超臨界水酸化小型装置を用いてメタノールを分解し、後半はオクテンの水和反応を行った。

日 程： 2014/9/8(月)、9/9(火)、9/22(月)、9/24(水)
参加学生： 1名
活動場所： 柏キャンパス 環境棟
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境システム学専攻
大島研究室
<http://www.oshimalab.k.u-tokyo.ac.jp>

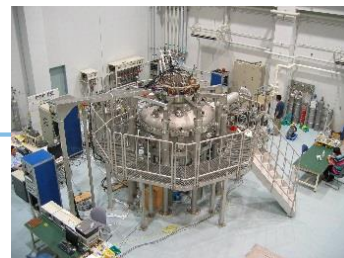


超臨界水酸化小型装置

15. 宇宙とラボをつなぐプラズマ物理

プラズマ宇宙物理・核融合エネルギーの研究現場を体験した。柏キャンパスのRT-1磁気圏型プラズマ実験装置は、東京大学が有する大型実験施設の一つで独自の実験技術を開発しながら最先端の研究が行われている。本プログラムではこの実験施設で、実験装置や実験の原理、研究内容について学んだ後、プラズマの密度を自動で測定するプログラムを作成した。

日 程： 2014/9/2(火)-9/5(金)、9/8(月)
参加学生： 1名
活動場所： 柏キャンパス 基盤科学実験棟 RT-1実験室
備 考： 東京大学大学院新領域創成科学研究科
基盤科学研究系先端エネルギー工学専攻プラズマ理工学研究室
<http://www.ppl.k.u-tokyo.ac.jp/>



RT-1磁気圏型プラズマ実験装置



プラズマを閉じ込める容器の観察

16. 利根川水系におけるニホンウナギの生態学的研究

本プログラムは、ニホンウナギの生態調査から自然環境のあるべき姿を学習することを目的とした。まず、利根川に放流するニホンウナギに発信機を取り付ける様子と、ニホンウナギやその他の海洋生物の飼育設備を見学した。ウナギの生態、自然河岸の重要性や研究室で行っている研究について講義を受けた後、ニホンウナギの消化管の解剖と耳石の採取を体験した。その後、発信機を取り付けたニホンウナギを利根川に放流した。



発信機を取り付ける様子を見学



ニホンウナギの解剖

日 程： 2014/12/9(火)

参加学生： 2名

活動場所： 柏キャンパス大気海洋研究所、及び利根川

備 考： 大学院新領域創成科学研究科 自然環境学専攻

海洋生物圏環境学分野 <http://mbe.aori.u-tokyo.ac.jp/>

17. 最先端のプロテオミックスの手法を体験しよう

二次元電気泳動法によるタンパク質の比較を行い、その中から特定のスポットを選択し、それがどのようなタンパク質であるかを特定する実験に直接触れた。スポットから切り出したゲルへの操作が非常に長く複雑であったが、最終的にResultsが出るのを確認できた。MALDI-TOF MSという最先端の装置を使い、ピークの測定及びタンパク質の同定ができ、めったにない貴重な経験ができた。



先端生命科学専攻の合同ガイダンス

日 程： 2014/8/18(月)-8/22(金)

参加学生： 1名

活動場所： 柏キャンパス 新領域生命棟

備 考： 大学院新領域創成科学研究科 先端生命科学

専攻 医薬デザイン工学分野：

<http://sites.google.com/site/iyakuhome/home>



成果発表会

18. 発達障害のある子どもを対象とした認知心理実験の現場体験

実際の認知心理実験場面に立ち会い、実験参加者の誘導や接遇、実験機器の用意と片付け、実験実施のサポート業務といった、実験の補助を体験した。発達障害のある子供にどうやって接触すれば良いのか、家族が何について心配しているのか、どんなことが大変なのかを勉強することができた。研究に関しては、実験の進め方(一つの実験あたりの拘束時間・実験デザインの仕方・被験者の集め方・実験時の生活スタイル)について、知識が得られた。



研究開始前に参加者に予定表で説明

日 程： 2014/8/1(金)-8/31(日)、各自定められた日程

参加学生： 3名

活動場所： 駒場キャンパス 進化認知科学研究センター

備 考： 大学院総合文化研究科 教養学部 長谷川・齋藤研究室：

http://beep.c.u-tokyo.ac.jp/index_japanese/Home.html



課題終了後にシールの貼り付け

Ⅲ 体験活動プログラム活動報告会

平成27年2月27日(金)、本郷キャンパス工学部2号館にて、体験活動プログラム活動報告会を開催した。報告会には、プログラムに参加した学生、学生を受け入れた学外関係者及び本学教職員等約180名が出席した。

理学部の王青波と、教養学部前期課程の黒田琴絵の進行で開会した。まず大和裕幸副学長より、学生に成長の機会を与えてくださった受入関係者への感謝の言葉が述べられ、プログラム参加学生の変化、成長、困難への対応を客観的に評価する取組について説明があった。



司会の黒田琴絵(左)と王青波(右)の進行で開会



大和裕幸副学長の開会の挨拶

参加学生による活動報告の前に、東京大学教育学研究科の石井悠と小島淳広が体験活動プログラムの概要を説明し、都内の院内学級でのボランティアプログラムと青森県深浦町での地域振興・農業体験プログラムに同行し、観察やインタビューから考察した体験活動プログラムの影響を報告した。



会場の様子



教育学研究科の小島淳広(左)と石井悠(右)

続いて、体験活動プログラムの活動報告として5つのプログラム(カンボジア「医学と平和」、岩手県「『復興留学』～復興まちづくりの業務体験～」、アメリカ「Work experience in the international venture business in Boston」、千葉県「在宅医療・介護体験活動プログラム」、ネパール「ネパールスタディーツアー2014」)に参加した学生が、体験活動から学んだことや将来に活かしたい経験等について報告した。

学外機関からは、釜石市復興推進本部事務局兼総合政策課の石井重成氏と、Global Project DesignのBryan Moser氏より、学生を受け入れた感想などが報告された。



カンボジア「医学と平和」



大学院医学系研究科の神馬征峰教授



千葉県「在宅医療・介護体験活動プログラム」



岩手県「『復興留学』～復興まちづくりの業務体験～」



金石市復興推進本部事務局兼総合政策課の石井重成氏



アメリカ「Work experience in the international venture business in Boston」



Global Project DesignのBryan Moser氏



ネパール「ネパールスタディーツアー2014」

最後に濱田純一総長より、受入関係者へ改めて感謝の気持ちが伝えられ、学生へ自分のもっている可能性を繰り返し引き出し、素晴らしい人生を送ってほしいと激励の言葉が送られた。



濱田純一総長の閉会の挨拶

報告会后に開催された懇談会では、学内外の関係者が活動を振り返り、意見交換をする有意義な交流会となった。なお、今年度の本報告会及び懇談会を実施するにあたり、約15名の学生が企画・立案から、当日の司会、受付及び会場案内などの役割を担い主体的に運営に参画したことは、本プログラムにおける成果の一つとなった。



運営に携わった学生スタッフ

報告会司会の感想

王 青波 (理学部3年)

報告会では司会を務めさせていただきましたが、どの発表もとても中身が濃く、興味の尽きないものだったと思います。私自身はこの夏、医学研究、及び臨床の世界最高峰、Harvard Medical School 訪問の機会を頂きました。最先端の場で活躍する日本人研究者のお話を聞き、自分の年代で活躍する学生と討論をする中で、世界を相手にしたときに今何が出来るのか、それを肌で感じた経験は、かけがえの無いものです。本プログラムが、今後も多くの学生にとって貴重な場となることを願っております。

黒田 琴絵 (教養学部前期課程2年)

報告会で一番印象的だったのは、グローバルな人になるためにはローカル(日本)のことをまず学ばなければならない、ということでした。私は外国人に日本のことを聞かれて何も答えられなくて恥をかいたことがあり、26年度の国内・研究プログラムに参加し、日本を代表するための自信を得ることができたと感じています。今後は留学生にも参加しやすいプログラムが増え、体験活動プログラムを通してより多くのグローバルな人材が育つことを願っています。



平成 26 年度体験活動プログラム報告会

日時：平成 27 年 2 月 27 日（金）

場所：工学部 2 号館 213 教室

（本郷キャンパス）

式 次 第

一．開 会

一．開会挨拶

【大和 裕幸 副学長】

一．プログラム概要と効果

【石井 悠 教育学研究科修士課程2 年】

【小島 淳広 教育学研究科修士課程1 年】

一．活動報告

◆医学と平和

◆「復興留学」～復興まちづくりの業務体験～

◆Work experience in the international venture business in Boston

◆在宅医療・介護体験活動プログラム

◆ネパールスタディーツアー2014

一．総長挨拶

【濱田 純一 東京大学総長】

一．閉 会

司会：王 青波 （理学部3 年）

黒田 琴絵（教養学部前期課程(PEAK)理科Ⅱ類2 年）



Hands-on Activities 2014 Debriefing Meeting

Date : (Fri.) 27 February 2015, 16:00~

Place : Rm. 213, Faculty of Engineering Bld.2
(Hongo)

Opening

Opening Address

【Hiroyuki YAMATO, Vice President】

Summary and Evaluation

【Yuu ISHII, 2nd Year Graduate School of Education】

【Atsuhiko KOJIMA, 1st Year Graduate School of Education】

Presentations

- ◆ Medicine and Peace
- ◆ "Recovery study" ~experiencing work for town recovery~
- ◆ Work experience in the international venture business in Boston
- ◆ Home medical care and nursing care experience
- ◆ Nepal study tour 2014

Message from the President

【Junichi HAMADA, President】

Close

【MC : Qingbo WANG Kotoe KURODA】



平成26年度 体験活動プログラム活動報告

作成	平成27年3月
編集	東京大学 教育・学生支援部 学生支援課 体験活動推進チーム
住所	〒113-8654 東京都文京区本郷7-3-1
電話番号	03-5841-2541/2542
URL	http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h19_j.html